

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
543	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
Prevalence, Risk Factors, and Impact on Health Related Quality of Life of Overactive Bladder in China. 中国における過活動膀胱の有病率、危険因子、健康に関連した生活の質に及ぼす影響について	
<b>執筆者</b>	
Yuliang Wang, Kexin Xu, Hao Hu, Xiaopeng Zhang, Xiaofeng Wang, Yanqun Na, and Xiaoping Kang	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Neurourology and Urodynamics 30:1448–1455 (2011)	
<b>キーワード</b>	
過活動膀胱、有病率、生活の質、危険因子	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b> 中国の18歳以上男女における過活動膀胱（OAB）の有病率、関連危険因子、健康関連の生活の質（HRQoL）に及ぼす影響を評価する。OABの基準は2002年国際排尿自制協会の定義にしたがった。</p> <p><b>方法：</b> 中国において2009年6月から2010年2月にかけて住民ベースの横断フィールド調査を行った。質問票を用いて、対象者特性、OABの有病率、HRQoLを調査した。地域一般集団の代表性を有する中国在住の18歳以上男女を層化無作為抽出し、まず、対象者特性について調査した。OABの診断基準（一週間一回以上の尿意切迫）を満たす個人についてさらにキングの健康質問票（KHQ）を用いた面接を行い、OABのHRQoLに及ぼす影響を推定した。</p> <p><b>結果：</b> 調査協力のため連絡をとった21,513人のうち、調査を完了した14,844人（男7,614、女7,230）を解析対象とした。有病率はそれぞれOAB 6.0%、OAB<sub>dry</sub> 4.2%、OAB<sub>we</sub> 1.8%であった。中国6地域での有病率の差は少であった。尿意切迫以外で最頻のOAB症状は夜間尿であった。男性においては、高齢、BMI高値、低学歴、手工業労働者、飲酒、結婚がOABの関連危険因子であった。女性においては、高齢、低学歴、手工業労働者、飲酒、結婚、閉経、出産数、経膣分娩、がOABの潜在的危険因子であった。OAB症状はHRQoLに有害な影響を及ぼしており、なかでも、適応・処理能力指数、睡眠・エネルギー、一般的健康観、尿関連症状の重篤さの分野でそうであった。</p> <p><b>結論：</b> 中国でのOAB有病率はほとんどのこれまでの報告より少なかった。既知の危険因子の多くとOABとの関連が認められた。OAB症状はHRQoLに有害な影響を及ぼしていた。一般集団および医療関係者を対象としOAB問題についての教育を改善し、OABによる不必要な負荷を軽減する必要がある。</p>	